

RIP に使う 3つの機材の 注目ポイント

飽くなき創意工夫によって
生み出された
オリジナル・マシン&ギア!

▶ STEP 1

人体に優しく、効率よく虚血する
「特殊カフ（空圧ベルト）」



カフの内袋の形状を工夫し、カフ内のゴム袋は各種（幼児、子供、大人用）の血圧計で使用されているものを転用。効率の良い加圧ができるとともに、神経を圧迫せず、装着が容易な構造です。

※カフは素肌に直接巻き付けずに、着衣の上から装着することをお勧めします。これによって皮膚に傷や痣を作る可能性を軽減できます。

▶ STEP 2

誰でも適切な圧を作れる
「脈動表示装置（特許 559370）」



脈動を感知し、適切に血流が制限されているかどうか、最大に貯血される状態にあるかどうかを分かりやすく示すことで、誰にでも適切な圧を作れます。

※手動型は、左写真の脈動表示装置は外付けで、これを目安に加圧、徐圧の操作をします。自動型は、脈動表示がデジタル表示され、加圧、徐圧は自動的に行われます。

▶ POINT 3

小型で簡易！
「RIP 自動制御装置」



大がかりな装置ではなく、小型で誰にでも使える簡単な仕様。

有効な虚血状態を作るために、10秒間で適切な圧にするエアポンプを内蔵しています。



● [DATA] 脈動を可視化したことで、 誰にでも使えるように

これまでもベルト等で血流を制限する方法は従来からありましたが、山崎博士の功績は虚血や貯血状態にあるか否かを、脈動表示装置（特許 559370）を發明し、目に見えるようにしたことにあります。類似の血流制限法では、装置の利用者の目分量で、その圧が決められており、装置の使用には資格が必要でした。

しかし、RIPでは、身体を痛めにくい特殊カフを装着し、脈動表示装置を可視化、自動制御装置で適切な圧を自動で作ることで、複雑な学習をすることも、資格を取得することもなく、誰にでもご利用いただけます。



歩行時に駆血⇄再灌流ができる
携帯型 RIP 自動制御装置もあります。